うかれ坊主（七枚続花の姿絵）

〽男裸でなァ　百貫かんの寒も　土用もわしゃ苦にゃならぬ　ほんに工お門へたった一文に　見限ぎられたる破れ衣　手桶と身柄一心に　浮世を渡る道楽寺　〽八宗九宗丸呑に　酒むに如来鼻の下　食う殿建立　〽と来たりやな　ト、トゝゝゝゝ

〽と、きおい口

〽さらば和尚が身の上話　一寸ちよぼくにかけべえか

〽ヤレエエ　どらが如来　やれ〳〵〳〵〳〵ちょぼくれちょんがれ〽そもそもわっちがすっぺらぽんの　野っぺらぽん　野っぺらぽんのすっぺらぽんと坊主になった　いわれ因縁コレ聞いてもくんねえ　〽然も十四のその春はじめて一軒となりの其又隣りの〽いっちくたっちく太衛門どんのおんばさんとちょぼくり〽色のいの字の味を覚えて　裏のかみさん向うのおばさん　お松さんにお竹さん　〽しいたけさんに干瓢さんと　〽さわり次第におてて枕で　やった揚句が女郎と出かけて　〽ヤレ〳〵〳〵畜生めそこらでやらかせ　〽手練手管にがらゝかかって　家にゃ片時おいども据らず　舟じゃあぶねえ　〽お駕籠で来なせ　〽なんのかのとの親切ごかしにいよ〳〵〳〵首ったけ　はまってのめたり　むく〳〵〳〵った

〽ソ、ソゝゝゝゝ

〽其時は　〽ぶん流したる大じゃれに　さればこれからまぜこぜおどりはどうじゃいな

〽オット来なせ

〽面白や　〽上り夜舟の櫂や櫓じゃとて舵を取ったえ　佐田や枚方淀　水に車がぐる〳〵〳〵と　伏見へ着くエ

〽オーイ

〽オーイ　おやじ殿　其の金こっちへ貸してくれ　〽与市兵衛仰天しいえ〳〵〳〵金では御座りません　〽娘化粧すりゃ狐がのぞく　賽の河原の地蔵尊　〽一つとや一ト夜明くれば賑かで〳〵〳〵飾り立てたる松一木変らぬ　〽色の世界に色なき者は　わしとかゝさんと糸取って居たら　殿御といいの　東上総のいちみの郡　村の小名をばかね〽沖に見ゆるは肥後様のエ　ソレ〳〵〳〵船よ　紋は九ッ九燿の星　〽蝶々とまれや菜の葉がいやなら　葭の先へとまらんせ

〽とんび烏にならるゝならば　飛んで行きたや主の側　〽主と二人でわしゃ暮すなら　酒で苦労もおきながし　〽鍋釜へつい銅壺やかんにすり鉢か　すりこぎか　ついでにおやじも添えしゃいィな　〽めったに出まかせ足まかせ　源八和尚は雲をやみ　いさみ散らして走り行く。